

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 小倉中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

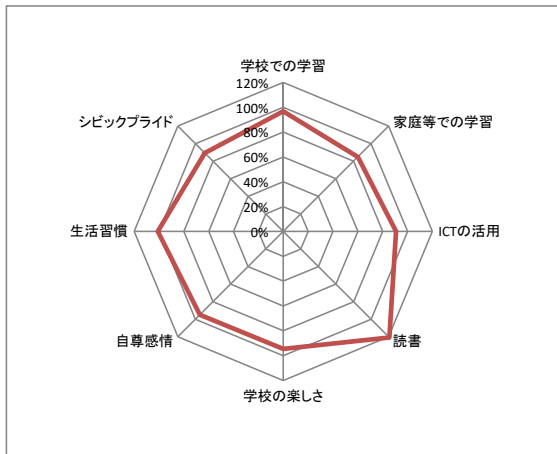
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「知識及び技能」に関する内容、「思考力・判断力・表現」に関する内容ともに全国平均正答率を下回っていた。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」において課題が見られる。	全国平均正答率との比較	下回っている
	よくできた問題	「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う問題」「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問題」等は比較的よくできている。		
	努力が必要な問題	「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題」「文章を読んで理解したことに基いて自分の考えをまとめる問題」「漢字を文の中で正しく使う問題」等は正答率が低く、改善の努力が必要である。		

算数	全体的な傾向や特徴など	「知識及び技能」に関する内容、「思考力・判断力・表現」に関する内容ともに全国平均正答率を下回っていた。特に「図形」や「データ活用」の領域において課題が見られる。	全国平均正答率との比較	下回っている
	よくできた問題	「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める問題」「伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係でないことを説明する問題」等は比較的よくできている。		
	努力が必要な問題	「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題」「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する問題」など、記述式の問題の正答率が低く、改善の努力が必要である。		

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
○	学校での学習については、学習した内容を次の学習につなげたり、ほかの学習に生かしたりする力や、自分の考えを発表する機会に、自分の考えがうまく伝わるように資料や話の組立てなどを工夫する力は全国平均を上回っている。しかし、課題の解決に向けて自分で考え、自主的に取り組む力が十分に身につけていない面が見られる。
○	家庭等での学習については、学習の計画性、家庭での学習時間ともに全国平均を下回っており、宿題の量を検討したり、各種通信や懇談会等を通じて家庭への啓発を継続的に行ったりする必要があると考える。
○	ICTの活用については、ICT機器が学習に役立つと感じている割合は全国平均を上回っており、日頃からタブレット端末をはじめとしたICT機器を活用した授業づくりを推進している成果が表れてきている。
○	読書活動については、読書週間の取組、日頃の学級での取組や啓発活動の成果が確実に表れてきている。
○	自尊感情については、人の役に立ちたいと思っているものの、自分の良さを感じていなかったり、自信が持てなかったりしている傾向が強い。今後、学校や家庭、地域も含めて児童の活躍の場を増やし、積極的に認め励ましていくことが必要だと考える。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○各学級においては、学習規律を徹底させ、落ち着いた支持的風土の中で学習が進められるようにする。
○授業においては、「めあて・まとめ・ふり返し」を子どもが理解しやすい言葉で確実に位置づける。また、授業の中で自分の考えを書く活動や、その考えを発表する活動の充実を図る。さらには、様々な課題の解決に向けて、自ら進んで取り組むことができるような授業づくりを推進していく。
○基礎的・基本的な学力の定着のために、補充の時間（適用問題）を確実に位置づけるようにする。
○タブレット端末をはじめとしたICT機器を効果的に活用した授業づくりを推進する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○家庭学習の定着を図るために、学級の実態や個々の能力に応じた内容・分量の宿題を出すようにする。
○児童の実態に合わせて家庭学習（自主学習）の時間や取り組み方について指導するとともに、保護者にも懇談会、学校だよりや学年だより等を通して家庭学習の大切さについて継続的に啓発していく。
○PTAとも連携しながら、携帯電話やスマートフォンの使い方や使用時間、ゲームをしたり動画を視聴したりする時間や時間帯、使用する際のルールづくり等について積極的に啓発していく。
○学校では、規則正しい生活習慣の大切さを学級指導や保健指導を通して児童に指導していくとともに、各家庭には「早寝早起き朝ごはん」の徹底について協力を呼び掛ける。